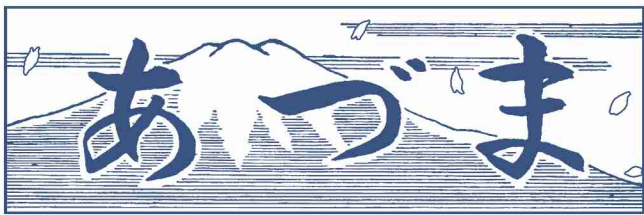


方面	04JXR	(1面)
1師団	師団訓練検閲	(3面)
12旅団	旅団訓練検閲	(4面)
1施設団	駐屯地・施設団記念行事	(5面)
関東補処	総監初度視察	(5面)



令和4年7月25日 第1050号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」  
総監要望事項「克己」

陸上自衛隊東部方面隊広報誌  
発行所：方面総監部広報室  
住所：東京都練馬区大泉学園町  
専用線：8-37-2446

04JXR

# 南海トラフ地震に備え

## 全ては国民を守るために



指針を示す総監

方面隊は6月20日から23日までの間、令和4年度自衛隊統合防災演習(04JXR)に参加し、南海トラフ地震対処計画を検証するとともに、指揮幕僚活動及び災害対処能力の維持・向上を図った。本演習は陸海空自衛隊が行う最大規模の統合防災演習であり、平成11年から実施され今回で22回目となる。各部隊はそれ



静岡県庁で職員と意見交換する行政副長

地方から四国にかけての太平洋側沖合を横走するプレート境界を震源域として、これまでに100年から150年の周期で繰り返し発生しており、今後30年以内に70〜80パーセントの確率で発生すると予想されている。

## 04JXRを研修 大規模震災対処について理解を促進



演習を研修するオピニオンリーダー等

方面隊は令和4年度自衛隊統合防災演習(04JXR)において、関係機関、東部方面隊オピニオンリーダー等に対する研修を実施した。本研修には関係機関である指定行政機関(環境省関東地方環境整備事務所、国土交通省関東地方



指揮所での幕僚活動

その駐屯地等から指揮所演習に参加し、「3夜4日の一連の状況下」で南海トラフ地震対処に係る訓練を実施した。本演習は当初、遠州灘を震源とする先発地震半割れ(東側)が発生し、その2日後、高知県南方沖を震源とする後発地震(半割れ(西側))が発生

して全国に被害が波及するという想定で実施された。方面隊は被害の大きい静岡県内において、当初第1師団及び第12旅団をもって即時救援活動を実施するとともに、その後、東部方面隊から第6師団、第9師団等、北部方面隊から第5旅団及び第11旅団等の増援を受け、先発地震から後発地震発生時における部隊運用を焦点として、南海トラフ地震対処計画を検証した。

また本演習においては、静岡県庁に方面現地調整所を実際に開設し、県職員との南海トラフ地震対処に関する連携要領についても検討した。方面隊は本演習における教訓事項を活用し、南海トラフ地震対処の実効性をさらに向上させていく。 関連 6面

## 東部方面音楽隊定期演奏会 「旅」の世界へ聴衆を魅了



クラリネットを演奏する雑賀3曹



指揮をする東部方面音楽隊長



横(まき)2曹のフルートソロ演奏



迫力ある演奏で聴衆を魅了



アルデバランを熱唱する小沼3曹

東部方面音楽隊のクラリネット奏者 雑賀(さいが)3曹は「コロナ禍になって初めての入場制限の無い定期演奏会でした。満員の聴衆に対して演奏ができるという事への喜びと、ありがたさを身に染みて感じました」と語った。

本演奏会は新型コロナウイルス感染症の影響で行動が制限される中、楽しい旅を連想させるような作品が選曲された。第1部ではN.ヘスの「グロバル・ヴァリエーション」やR.W.スミスの「月への12秒」等、世界一周や宇宙旅行を思わせる難易度の高い楽曲の演奏により聴衆を魅了した。また今年度の吹奏楽コンクール課題曲「やまがたふあんたじい」も演奏し、訪れた多くの学生が参考とする演奏を披露した。

第2部では「YASO B.I.S.ドレ」やNHK連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」の主題歌「アルデバラン」等、耳なじみのある曲を中心に隊員の歌やソロ演奏を交えて、聴衆を魅了した。東部方面音楽隊のクラリネット奏者 雑賀(さいが)3曹は「コロナ禍になって初めての入場制限の無い定期演奏会でした。満員の聴衆に対して演奏ができるという事への喜びと、ありがたさを身に染みて感じました」と語った。

# 方面各地で新隊員修了式 思い出と感謝を胸に巣立ち



第13普通科連隊(松本)



第117教育大隊(武山)



女性自衛官教育隊(朝霞)



第2普通科連隊(高田)



第30普通科連隊(新発田)



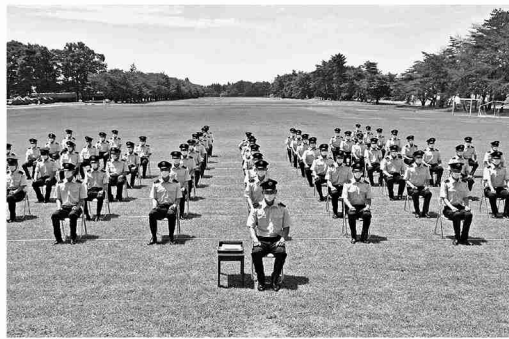
第1特科隊(北富士)



第12後方支援隊(新町)



第34普通科連隊(板妻)



第12特科隊(宇都宮)



第32普通科連隊(大宮)



第1普通科連隊(練馬)

6月下旬、方面区内の各駐屯地において、一般陸曹候補生課程及び自衛官候補生課程(合計約2,200人)の修了式が行われた。

新隊員たちはこれまでの約3カ月間の教育により、自衛官として必要な知識・技能及び体力・気力を身に付けるとともに、団体生活の中で規律心のほか、責任感や団結心を養い、一人前の自衛官としての成長を重ねてきた。修了式では共に歩んだ

仲間との別れを惜しみつつ、入隊時とは見違えるような凛々しい姿となり、7月1日付で全国の特技教育担任部隊へ異動した。次の教育では、各職種の専門的な知識や技能を身に付け、その後

各部隊に配属され第一線で活躍することとなる。将来の陸上自衛隊を支えるため、新隊員たちはそれぞれの思い出と感謝の思いに加え、希望を胸に新たな一歩を踏み出していく。

## 高機動車で駐屯地内を疾走 広報センター企画 体験搭乗

広報センターは6月25日、朝霞駐屯地内において高機動車による車両体験搭乗を企画した。



琵琶湖のほとりを走る高機動車



体験搭乗を楽しむ来館者

189人に対して、駐屯地内の約2キロのコースを経路沿いにある要所の紹介を交えながら行われた。

中でも今回は、朝霞駐屯地創設前の昭和7年から16年まで現地に所在したゴルフ場「東京ゴルフ倶楽部」の3番ホールの名残である池(通称琵琶湖)の見学も行われ、来館者は興味深い様子で隊員の朝霞駐屯地の歴史に係る説明に耳を傾けていた。

また広報センターでは今後も、9月10日に第12音楽隊によるファミリーコンサート、9月11日に高機動車による車両体験搭乗等の各種イベントを予定している。広報センター長は「来館いただいた方々が心から楽しんでいただけるよう、工夫を凝らしたイベントを企画します。ぜひ多くの皆さまのご応募をお待ちしております」と語っている。

## 第20回 国民の自衛官



第31普通科連隊 山田 健二 曹が受賞決定

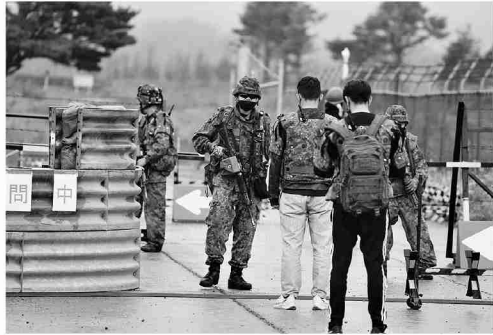
災害派遣や国際貢献、国民に感銘を与える行動で著しい功績のあった自衛官を顕彰する「第20回国民の自衛官」(フジサンケイグループ主催)に東部方面混成団第31普通科連隊 山田 正人 曹が受賞決定した。

山田 曹は平成11年退職以降、20年間にわたる577日間の訓練出頭に応じ、即応態勢の維持に努め、自衛隊の精進強化及び民生の安定に寄与する等、国民の自衛隊に対する信頼を高めた。

また令和元年10月に

# 第1師団

## あらゆる困難を克服して任務完遂！ 自ら考え 創造的破壊に挑戦



検問所を運営する1特



武装作業員等の搜索・撃滅 32普連



統裁官による訓示



対空戦闘(短SAM)を行う1高大



徒步行進をする1高大



攻撃前進をする32普連

### 森下総監が初度視察 師団の状況を報告



総監の巡閲を受ける1普連儀じよう隊

師団は5月20日、総監による初度視察を受察した。師団2役、業務隊長等が総監を出迎える中、第1普通科連隊第2中隊藤本3尉が指揮する儀じよう隊による儀じよう及び第1音楽隊による栄誉礼を実施し、師団の威容を示した。

総監は幹部挨拶、状況報告を受けた後、隊内巡視(音楽隊合奏場、生活隊舎、食堂、弾薬庫、方面直轄諸隊等)を行った。総監はその後、営庭へ移動し、師団司令部、師団隷下部隊及び練馬駐屯地所在部隊員に対して「第1師団は1都6県の防衛警備、災害派遣等を担う唯一の首都防衛師団である。また昨年末の第1偵察戦闘大隊新編に続き、



FH-70で射撃支援をする1特



無線中継をする1通大



SCに資する動画作成をする1通大

今年度末には第1特科隊廃止及び火力調整部の新編により地域配備師団に改編予定である。このため首都機能維持に関わる戦い方を検討し、

視(音楽隊合奏場、生活隊舎、食堂、弾薬庫、方面直轄諸隊等)を行った。総監はその後、営庭へ移動し、師団司令部、師団隷下部隊及び練馬駐屯地所在部隊員に対して「第1師団は1都6県の防衛警備、災害派遣等を担う唯一の首都防衛師団である。また昨年末の第1偵察戦闘大隊新編に続き、



音楽隊合奏場の視察



生活隊舎の視察

また令和4年度の特性を踏まえつつ、即応態勢及び作戦基盤の充実並びに作戦遂行能力の向上を図り、隊務運営にまい進することを期待する」と訓示した。

師団は総監視察を受け、師団長を核として任務にまい進する決意を新たにした。

第1師団は5月31日から6月8日までの間、北富士、東富士演習場等において、第1普通科連隊等を対抗部隊として、第32普通科連隊、第1特科隊、第1高射特科大隊及び第1通信大隊に対する訓練検閲を実施した。

本訓練検閲は「徒步行進に引き続く陣地攻撃」を検閲課目として実施する中、32普連及び1特に対してはさらに「対ゲリラ・コマンドウ」も課目として付与し、その練度を確認した。訓練検閲実施にあたり統裁官(師団長)は「勝利への執念」「創造的破壊」「非戦闘消耗の局限」「自ら学べ」の4点を要望した。

5月31日から6月1日までの間、32普連及び1特は、治安出動に次いで防衛出動下令下において住民混在下の武装作業員等への対処を実施した。両部隊は住民の安全確保を最優先事項として行動し、警察・自治体との各種調整、作戦地域でのスクリーニング等を実施、最終的に潜伏する武装作業員等を搜索・撃滅して任務を達成した。

その後、6月2日から3日の朝にかけて32普連は約40キロ、1特、1高大及び1通大は約30キロの徒步行進を実施し、引き続き東富士演習場に展開する敵先遣戦闘団(1普連基幹)に対する攻撃を開始した。

攻撃開始に先立ち、1特及び1高大は北富士演習場に陣地占領、また1普連は32普連を平塚道沿いに、4中隊を戦車道沿いにそれぞれ前進させ、敵警戒部隊を駆逐するとともに、同日15時頃、3中隊及び5中隊を並び列して攻撃させ、狐塚から大野一帯を確保し、明朝以降の敵主陣地

3日、32普連は1中隊を平塚道沿いに、4中隊を戦車道沿いにそれぞれ前進させ、敵警戒部隊を駆逐するとともに、同日15時頃、3中隊及び5中隊を並び列して攻撃させ、狐塚から大野一帯を確保し、明朝以降の敵主陣地

3日、32普連は1中隊を平塚道沿いに、4中隊を戦車道沿いにそれぞれ前進させ、敵警戒部隊を駆逐するとともに、同日15時頃、3中隊及び5中隊を並び列して攻撃させ、狐塚から大野一帯を確保し、明朝以降の敵主陣地

い、作戦間4本のSC映像を編集して師団司令部に提出した。

4日、32普連は1特の攻撃準備射撃の下、連隊攻撃目標に向け攻撃を開始、5日夕方には目標地域の確保に成功した。6日、32普連隊長が師団長に今後の防衛構想について報告した時点をもって、本訓練検閲の状況を終了した。

本訓練検閲間において5月31日、総監の訓練視察を受察、6月5日に東方オビニオンリーダ1等及び師団懇話会による訓練現地研修を実施するとともに、6日には旧陸軍第1師団長副官を務められた松本實氏による先の大戦の体験に基づく部外講話を実施し、貴重な経験談を拝聴する機会を得ることができた。

第1師団懇話会による研修

松本氏(写真左)による講話

通大は大隊主力を同じく北富士演習場、一部を師団主力が集結する松本駐屯地に展開させるとともに、方面区内の各要地に中継所を開設した。これにより先遣32普連と師団主力との間の指揮連絡を確保するため(1普連基幹)に対する戦間の終始を通じて維持

通大は大隊主力を同じく北富士演習場、一部を師団主力が集結する松本駐屯地に展開させるとともに、方面区内の各要地に中継所を開設した。これにより先遣32普連と師団主力との間の指揮連絡を確保するため(1普連基幹)に対する戦間の終始を通じて維持

通大は大隊主力を同じく北富士演習場、一部を師団主力が集結する松本駐屯地に展開させるとともに、方面区内の各要地に中継所を開設した。これにより先遣32普連と師団主力との間の指揮連絡を確保するため(1普連基幹)に対する戦間の終始を通じて維持

通大は大隊主力を同じく北富士演習場、一部を師団主力が集結する松本駐屯地に展開させるとともに、方面区内の各要地に中継所を開設した。これにより先遣32普連と師団主力との間の指揮連絡を確保するため(1普連基幹)に対する戦間の終始を通じて維持

通大は大隊主力を同じく北富士演習場、一部を師団主力が集結する松本駐屯地に展開させるとともに、方面区内の各要地に中継所を開設した。これにより先遣32普連と師団主力との間の指揮連絡を確保するため(1普連基幹)に対する戦間の終始を通じて維持

### 優秀隊員表彰

- 【表彰】(第4級賞詞)
- 【第32普通科連隊】
- 第1中隊 千葉1曹
- 第2中隊 梶原3曹
- 同 田口3曹
- 第3中隊 村田士長
- 第4中隊 荒井3曹
- 【第1特科隊】
- 隊本部 石川2尉
- 本部管理中隊 白木1曹
- 第2中隊 渡邊3曹
- 【第1高射特科大隊】
- 指揮情報中隊 増田3曹
- 【第1通信大隊】
- 本部管理中隊 森田2曹

- 【褒賞】
- 【第32普通科連隊】
- 本部管理中隊 阿部1曹
- 同 杉山2曹
- 第5中隊 神3曹
- 【第1特科隊】
- 第1中隊 渡邊3曹
- 第3中隊 佐野3曹
- 第4中隊 宮下2曹
- 情報中隊 小笠原3曹
- 【第1高射特科大隊】
- 隊本部 佐々木2尉
- 本部管理中隊 杉山1曹
- 高射中隊 佐久間3曹
- 【第1通信大隊】
- 隊本部 小野寺2尉
- 第1中隊 生方1曹
- 第2中隊 齋藤2曹

第12旅団

第1次旅団訓練検閲

全弾命中で有終の美を飾る



79式対舟艇対戦車誘導弾を照準する12対戦車中の隊員

旅団は5月29日から6月6日までの間、関山演習場において第12対戦車中隊に対する令和4年度第1次旅団訓練検閲を実施した。訓練開始式において統裁官(旅団長)は「一致団結し、平素の練成成果を遺憾なく発揮して任務を完遂せよ。第12対戦車中隊として最後の検閲における健闘を期待する」と述べるとともに「敵を

意識せよ」「指揮の要訣の実践」「迅速・確実な射撃の実施」「安全管理・健康管理の徹底」の4点を要望した。12対戦車中の隊員は旺盛な使命感の下、状況に即した効果的な対機甲戦闘を繰り広げるとともに、79式対舟艇対戦車誘導弾の実弾射撃において全弾命中させるなど、その練成成果を遺憾なく発揮し、12対戦車中として受関する最後の検閲で有終の美を飾った。優秀隊員に選ばれた12対戦車中黒澤3曹は「中隊最後の訓練検閲において褒賞されたことをうれしく思います。さらに努力を継続して部隊に



79式対舟艇対戦車誘導弾の実弾射撃をする12対戦車中



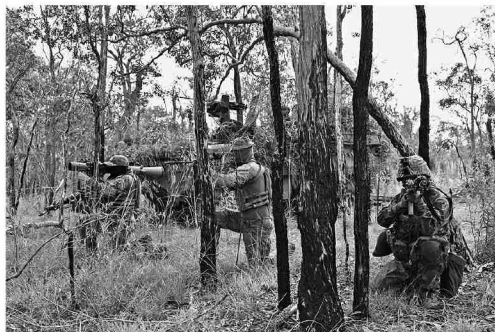
豪州における米豪軍との実動訓練に参加した13普連1中の隊員

13普連が豪州で共同訓練

旅団は4月30日から6月7日までの間、豪州クインズランド州ショールウォーターベイ演習場及びカリアラパークスにおいて実施された令和4年度豪州における米豪軍との実動訓練に第13普連科連隊基幹の部隊を参加させた。



各国指揮官の記念撮影(両端 13普連隊員、左から2人目 豪軍、右から2人目 米軍)



共同訓練をする豪軍(左、中央)と13普連隊員(右)

本実動訓練は豪州の良好な訓練基盤を活用し、日米豪共同訓練を実施し、対ゲリラ・コマンドウ作戦に係る作戦遂行

能力及び相互運用性の向上を図るとともに、陸自と米豪軍とのさらなる連携の強化を図ることを目的として実施された。訓練は日米豪共同による夜間を含む重要防護施設等の防護、敵部隊等の捜索・撃滅、爆発物の捜索及び処理を主要演習項目として実施された。

参加した13普連基幹の部隊は米海兵隊及び豪陸軍とともに、市街地戦闘訓練、夜間含む至近距離射撃、錯雑地等における戦闘射撃及び3力国共同による実動訓練を実施した。錯雑地における戦闘射撃では、豪陸軍の移動的等を使用した

「中隊最後の訓練検閲において褒賞されたことをうれしく思います。さらに努力を継続して部隊に貢献していきます」と喜びを語った。

松本駐屯地 伝統の小梅漬け

夏に向け20kgの梅を漬け込む



婦人の会のメンバーと梅を漬け込む若手隊員



松本駐屯地は5月31日、駐屯地の恒例行事である「小梅漬け」を行った。

駐屯地司令(写真左)とともに記念撮影

この行事は暑さが厳しくなる夏を前に隊員の食欲増進、塩分補給、疲労回復を目的として提供される小梅を漬け込むものである。昭和41年から毎年実施されている駐屯地の伝統の行事であり、今年で55回目を迎えた。今年も山岳部隊婦人の会のメンバー4人が指導員となり、熟練の漬物技術が若手隊員に伝承された。作業は駐屯地食堂で行われ、白衣とマスクを身に着けた駐屯地各部隊の若手隊員は、梅20キログラムと赤しそ4キログラムを塩揉みし、それぞれを容器の中に混ぜ入れて漬け込んだ。全体的に漬け込んだ。全小梅漬けとあって当初はぎこちない動きであったものの、指導員からの孫を見守るような優しい指導を受け、無事に約1時間作業を完了した。参加した13普連第3中隊村越士長は「伝統に携われてとても貴重な経験ができた。気持ちを込めて漬けたので、隊員には是非食べてもらいたい」と語った。7月下旬から漬けあがる小梅は、逐次隊員食堂で提供される。

新発田駐屯地 白壁兵舎広報史料館

来館者15万人を達成



白壁兵舎広報史料館



15万人目の来館者に記念品を贈呈する館長

白壁兵舎広報史料館は令和4年5月18日、来館者15万人を達成した。平成26年5月の開館以来9年目の達成で、近年は新型コロナウイルス感染症の蔓延による休館等により来館者数は減少していたものの、館内の感染予防対策に万全を期し、来館者が安心して来館できるよう努め、この日を迎えた。記念すべき15万人目の来館者となったのは、愛知県刈谷市在住の内藤裕之さん。史料館入口で勤務員による盛大な拍手で迎えられ、館長からのお祝いの言葉と記念品贈呈の後、記念撮影が行われた。内藤さんは「史料館の事は以前から知っていて仕事の関係で秋田に向かう途中に初めて来館しました。偶然にも来館者15万人目選ばれ、とてもうれしく思います」と話した。また白壁兵舎広報史料館長は「全国各地から多くの人々に来ていただき非常にうれしい。これからも感染症予防対策の万全を徹底しつつ、引き続き陸上自衛隊第1号の歴史的建造物である白壁兵舎と駐屯地の歴史を広報し、1人でも多くの方に新発田の魅力を発信していきたい」と語った。

第1施設団

# 地域の理解及び信頼を醸成 作戦基盤の充実に寄与

# 地域と共に光り輝く未来を進む 古河駐屯地創立68周年・第1施設団創隊61周年記念行事



式辞を述べる執行者(団長)



観閲式での巡閲



訓練展示の様子



威風堂々たる観閲行進

施設団は6月5日、古河駐屯地において古河駐屯地創立68周年及び第1施設団創隊61周年記念行事を挙行し、古河駐屯地及び第1施設団に対する地域住民等の理解と信頼を獲得し、作戦基盤の充実に寄与するとともに駐屯部隊及び団隷下部隊の隊員の使命の自覚と士気の高揚を図った。

例年は駐屯地を一般開放し、平素より古河駐屯地及び第1施設団への理解・支援に感謝の意を表わすため、災害派遣隊区

今年度も昨年同様に、映像記録班により記念行事準備の段階から写真・映像を撮影し、東部方面システム通信群の支援を受け、SNSを活用した情報発信を準備した。

団長は式典において「日本が未曾有の困難に直面している時こそ、われわれ隊員一同は、諸先輩方が築き上げて来られた良き伝統と地域の皆様との強い絆を礎として『地域と共に光り輝く未来』に向け努力していくことが必要である。地域と国民の皆様の負託にこたえることのできる強靱な部隊の創設を目指し、さらなる精進を積み重ねていく所存である(要旨)」と式辞を述べた。

続く市町旗の紹介では、自治体等からの理解・協力に対する敬意を表すため、災害派遣隊区

である古河・霞ヶ浦分区の17市町旗を紹介した。また観閲行進では、古河駐屯地所在部隊の他、施設団隷下部隊による特大型タンク、03式中距離地对空誘導弾等の一糸乱れぬ車両行進を行った。訓練展示では古河駐屯部隊の機能紹介として、第101施設器材隊による橋梁架設、第337高射中隊による03式中距離地对空誘導弾の射撃準備及び隊員による格闘展示を実施した。

撮影された映像は、第1施設団SNS「陸上自衛隊古河駐屯地第1施設団公式チャンネル」において配信されている。

「あつま」読者の皆さんも、ぜひご家族、友人等と古河駐屯地記念行事の動画を楽しんでいただきたい。

フォロー募集中

【YouTube】

【Twitter】

## 大規模災害への備え 実任務を意識し作戦遂行能力を向上

施設団は6月20日から23日までの間、朝霞駐屯地で実施された令和4年度自衛隊統合防災演習(04JXR)に参加した。本演習では最大震度7の揺れを観測した大規模災害の状況下で行われ、地震発生後の速やかな情報収集及び状況報告を実施した後、団本部は朝霞駐屯地へ向け前進を開始。現地において施設学校から増加幕僚を加え、施設調整所を開設・運営した。施設調整所では陸災遠

本演習間「被害状況及び施設支援の所要に応じた施設科部隊運用」等について演練し、東部方面隊の作戦遂行能力の向上に寄与した。

州灘東方司令官(総監)の状況判断・決心に資する幕僚活動及び東部区内における増援部隊を含む施設科部隊運用の最適化並びに陸上総隊及び各方面隊の施設調整所との連絡・調整業務等を行い、施設運用に係る補佐を実施した。

施設調整所編成完結式

施設調整所を視察する総監

## 関東補給処

# 総監初度視察 関東処の現況を報告



総監の巡閲を受ける儀じよう隊及びらっば隊



ドラム缶整備工程を説明する朝日燃料支処長(右)

関東補給処は6月15日、霞ヶ浦駐屯地及び朝日分屯地において総監の初度視察を受けました。本受察は総監に対して関東処の現況、課題等を報告するとともに、各種施設の視察を受けることにより、今後の隊務運営の資を得ることを目的として行われた。

総監は駐屯地に到着後、講堂において関東処隊員で編成された儀じよう隊による儀じよう及びらっば隊による栄誉礼を受け、本部庁舎へ移動し視察を開始した。

会議室で概況報告を受けた総監は、続く隊内巡視において移動式医療シ

ステム(Mシステム)や各部保有倉庫、整備工場あわせて東方隷下部隊の執務室、最後に朝日燃料支処を視察し、隊務運営状況を確認した。

視察を終えた総監は隊員を前に「われわれは伝統を継承しつつ環境の変化に対応し、あらゆる事態に対応し得るよう変革し進化し続けなければならぬ。関東補給処は中央兵站基地として、また方面兵站基地として平素から諸準備を万全にし、あらゆる事態に対処できるように兵站の実効性を向上せよ。諸官が担任する業務が陸上自衛隊の任務遂行に影響を及ぼす、極めて重要なものであることを深く認識せよ。兵站の要として全国支援及び東方支援を担う誇りと責任を自覚し、処長の統率の下、作戦能力の向上及び即応態勢の充実に努めよ(要旨)」と訓示を述べ駐屯地を後にした。

関東補給処は本受察を資とし、引き続き職務に精励していく。

## FMA開設要領を 実動で演練

関東補給処は6月4日から7日までの間、富士地区所在各駐屯地等で兵站実動訓練を実施した。

本訓練では方面前進兵站基地(FMA)開設に伴う偵察及び進入、また開設地区における業務隊との連携要領等、一連の行動を演練し、実効性の向上を図った。

## 富士総合火力演習にて 兵站の真価を発揮



自走榴弾砲を整備する火器車両班員



弾薬積載作業に当たる富士弾薬出張所隊員

関東補給処は5月12日から28日までの間、東富士演習場、富士駐屯地、各支部・各支処等の所在する駐(分)屯地において、富士総合火力演習に係る任務に当たった。

本任務は5月29日に実施された「令和4年度富士総合火力演習」において、演習の成功に最大限寄与することを目的として実施し、野整備部隊等と緊密に連携した補給整

備支援を実施し、装備品の不可動を防止するものである。

現地での任務に当たった富士派遣隊は、本部班、火器車両班、誘導武器班、施設班、航空班等で編成され、それぞれの地区において担任する器材の整備業務と技術援助をを行った。また各部・各支処等は派遣隊が現地で受けた不足部品等のニーズに基づき、各駐(分)屯地から補給品の輸送・交付を実施し、演習の成功に大きく貢献した。

## 戦没者へ捧ぐ哀悼の誠

### 予科練戦没者慰霊祭



献花を行う副処長(手前)

5月29日、土浦駐屯地内「雄翔園」において、公益財団法人「海原会」が主催する第55回予科練戦没者慰霊祭に副処長、池田将補が参列した。

予科練とは旧日本海軍における海軍飛行予科練習生の略称及び制度を指し、昭和5年、航空機の搭乗員を若年から育成する目的で制度が開始された。同15年には土浦海軍航空隊(現土浦駐屯地敷地)が開設され、その教育を担い、終戦までの間に飛行練習生課程を卒業した約2万4千人が戦地に赴き、そのうち約1万9千人が戦死した。

当日は海自隊員による弔銃や来賓による献花等が執り行われ、参列者は英霊の遺徳をしのいだ。

# 混成団 新隊員総仕上げ

## 第117教育大隊 総合訓練



25km行進を行う新隊員

第117教育大隊は6月1日から9日までの間、長坂訓練場、武山駐屯地及びその周辺において第18期一般陸曹候補生課程（前期約900人）の総仕上げとなる訓練を実施した。

訓練期間中、高温多湿かつ風雨の厳しい環境の中で、4コ共通教育中隊のそれぞれ新隊員が約2日間の訓練で「25キロ行進」「小銃用掩体の構築」「昼間から夜間の歩哨」「宿営」及び「戦闘訓練」の5課目を実施した。

炎天下の中で対敵行動をとりつつ完歩した25キ

ロ行進、大粒の汗を流しながら構築した小銃用掩体、薄暮時期の敵情の見え方や夜間の音の聞こえ方を修得した歩哨訓練、普段と違った環境に少しワクワクした初めての天幕宿営、泥だらけになりながら地を駆け這いつくばった戦闘訓練など、新隊員たちは同期と声を掛け合ひながら全力でさまざまな訓練に臨んだ。

本訓練は前期教育の集大成にふさわしく、入隊時と比べ、たくましくなった彼らの成長を実感できた。



戦闘訓練ではぶくする新隊員

### 後支隊

## 焼夷爆弾を安全化 静岡県磐田市で不発弾処理



緊張感漂う中、不発弾の安全化を図る伊勢崎 3曹



安全化された不発弾を回収する 102不発弾処理隊



不発弾処理の様子

東部方面後方支援隊第102不発弾処理隊は6月26日、静岡県磐田市において発見された不発弾の現地安全化を実施した。

不発弾は4月12日に静岡県磐田市で発見された米国製の500ポンド焼夷爆弾（信管あり・直径約36センチ・長さ約18センチ）で、同月13日、防護措置を実施し、市との調整及び会議を経て、5月23日、磐田市長と不発弾処理に関する協定を締結した。

処理当日、不発弾発見現場から半径35メートルの範囲を避難対象区域とし、約600世帯、約1400人の住民

が避難を実施するとともに、付近の国道1号線及び県道に交通規制が敷かれ、磐田市、消防団などが避難を実施するとともに、関係機関が約500人態勢で対応に当たった。不発弾の信管離脱は約30分で終了し、現地安全化を完了した。

処理班として参加した伊勢崎3曹は「住民避難を伴う不発弾処理は約1年ぶりであり、緊張する中での作業であったが、普段から練成している手順通りに処理することができた。今後も安心・安全に処理できるよう、さらなる練度の向上に努めたい」と語った。

### 音楽隊

## 部外講師を招へい 演奏技術の向上を図る



技術指導を受ける東音 野沢曹長

東部方面音楽隊は6月14日から17日までの間、令和4年度音楽科職種練度向上施策の一環として、部外講師によるフルート、ホルン、サクソフ

オン、歌手及び司会の講習を行い、演奏能力の維持・向上を図った。

講師には東京都交響楽団、東京佼成ウインドオーケストラや音楽大学から、各分野を代表する奏者を招へいし、東部方面音楽隊、第1音楽隊及び第12音楽隊の対象者がそれぞれ受講した。

加したサクソフォン奏者野沢曹長は「定期演奏会終了直後の参加だったが、今、自分のできることを準備して参加した音楽的な部分はおおむねイメージ通りに演奏することができたが、改めて基礎的部分に時間をかけなければと思った」と所感を述べた。

### シ通群

## 自衛隊への理解増進 埼玉地本装備品展示を支援

東部方面システム通信（埼玉県越谷市）で実施群は6月4日、自衛隊埼玉地方協力本部が「越谷レイクタウン防災フェス

当日は本部中隊、第105指揮所通信大隊及び第304中樞交換通信中隊の隊員が、小型トラック、大型トラック、野外炊具1号並びに野外通信システムを展示するとともに、各車両の運転席・助手席、野外炊具1号へ体験的に乗車させた。



野外炊具1号に乗車して記念撮影する来場者

野外炊具1号の展示においては、来場者も特に興味を示し、乗車して装備品の細部を見学するとともに、使用実績等の質問も多く寄せられ、自衛隊のさまざまな活動についてアピールできた。

また支援隊員と来場者との会話の中で、自衛隊に対する激励の声も多数あり、今回の支援を通じて、自衛隊への理解をさらに増進することができた。

### 朝霞業務隊

## 衛生科職種の交流深める フィジー共和国に対する能力構築支援

朝霞駐屯地業務隊は6月28日、陸上自衛隊能力構築支援の一環としてフィジー共和国フィジー軍の衛生科職種の交流深める能力構築支援を実施した。



医務室前での記念撮影

衛生科職種の交流深める能力構築支援を実施した。フィジー軍は来年、自衛隊の医療施設開設を予定している中、来日した衛生科職種の交流深める能力構築支援の一環として、衛生科職種の交流深める能力構築支援を実施した。また懇談を通じてフィジー軍の衛生科職種の地位・役割、軍医・看護師等の教育システムなどを紹介した。本事業を通じて業務の衛生科職員としての知見も広がり、衛生科職種の交流を深めるとともに、日本、フィジー共和国の人的ネットワークの構築に寄与することができた。



衛生器材を確認するフィジー軍衛生兵



両国の隊員同士の懇談

### 訓練所感

第2高射特科群  
第302高射搬送通信中隊  
2等陸曹 菅倉 大輔



### 野外行動訓練検閲に参加

私は第2高射特科群第302高射搬送通信中隊に所属し、群の主任務である首都防空のため、搬送通信隊として群本部、本部管理中隊及びそれぞれの駐屯地に展開している各高射中隊との間の多重無線回線を構成・維持・運営し、任務完了し得るよう日々尽力しています。6月8日から10日までの間、令和4年度第1次高射中隊等野外行動訓練検閲を受閲し、第302高射中隊(柏訓練場)の同行端局班長に就きました。この間、中隊の任務完了のためには、被支援部隊のみならず、上級部隊及び関係部隊と密接に連携しなければ、わが部隊の野外通信能力を最大限発揮できないことを学びました。受閲間はず、作戦準備として出動準備、防衛施設構築等から始まり、1次侵攻対処、対空戦闘、敵特殊部隊による攻撃対処を実施していきました。班としては入間防空指令所と接続する対空戦闘指揮装置と各高射中隊間の多重無線系の構成・維持・運営において、必通の信念の下に良好な回線状況を高射中隊に提供することができました。また今回は、336高射中に配属されましたが、特に印象に残ったことは、中隊の隊員一人一人が自らの使命を自覚し、任務達成のために昼夜を問わず汗を流して、今までの訓練の成果を遺憾なく発揮していたことです。また班長としての職責の重さを感じました。この訓練の成果を部隊でも普及し、引き続き戦果に対する執念を持ち、中隊の力を十分発揮できるように「高射」「通信」の二刀流で与えられた任務を完了していきたいと思っております。

### 栃木地本

## 戦闘機を間近で見学 自衛隊への理解深める



F-2戦闘機を見学する学生たち

自衛隊栃木地方協力本部は5月14日、自衛隊に関心がある高校生、大学生等15人を航空自衛隊百里基地見学案内した。当日は雨天のため、C-47の体験搭乗は中止となったものの、参加者は装備品展示や広報資料館見学等を通じ、航空自衛隊への理解を深めた。装備品はF-2戦闘機や基地防空用地対空誘導弾、救難消防車等が格納庫に展示されており、近くで見学したり、勤務員に質問する参加者の姿が見られた。「体験搭乗がなくなると残念でしたね」という問いにも「この場所に来られただけでよかった。こんな機会がめったにない」「自衛隊を志望しているが現場の自衛官と直接話ができ、さらに受験したいという気持ちが強まった」と等の声がかかった。広報資料館ではF-4戦闘機の模擬コックピットに代わるがわる座り、計器類についての勤務員の説明に熱心に耳を傾ける様子が見られた。また航空救難隊の落下傘装着体験コーナーでは「こんなに重いものを背負っているのか」と自衛官の強靱な体力に驚く場面もあった。栃木地本は今後も、駐屯地や基地見学を通じ、自衛隊を身近に感じてもらえるよう活動していく。



F-4のコックピットに座る学生

## Jリーグ・ショッピングモールでPR 山梨地本 県内各地で広報活動



南極の氷の展示(小瀬スポーツ公園)



グッズを配布する隊員(河口湖ショッピングセンター)

自衛隊山梨地方協力本部は5月14日、サッカーJリーグヴァンフォーレ甲府の試合が行われた小瀬スポーツ公園(甲府市)において広報活動を行い、小型トラック(陸)、「ふじくん」「かえでちゃん」と共演した。また5月23日から29日までの間、河口湖ショッピングセンターBELLにおいてパネル展を実施し、航空自衛隊を紹介した。さらに28日にはチラシやマスキングテープなど自衛隊にちなんだグッズを来店された多くの方に配布した。山梨地本の広報官は「今後も、県内各地で広報活動を予定しており、時期や場所は山梨地本ホームページやSNSにおいてご案内いたしますので、ぜひご参加ください。お待ちしております」と語っている。

### ある!ある!自衛隊

byともえ



F-2戦闘機を見学する学生たち

自衛隊栃木地方協力本部は5月14日、自衛隊に関心がある高校生、大学生等15人を航空自衛隊百里基地見学案内した。当日は雨天のため、C-47の体験搭乗は中止となったものの、参加者は装備品展示や広報資料館見学等を通じ、航空自衛隊への理解を深めた。装備品はF-2戦闘機や基地防空用地対空誘導弾、救難消防車等が格納庫に展示されており、近くで見学したり、勤務員に質問する参加者の姿が見られた。「体験搭乗がなくなると残念でしたね」という問いにも「この場所に来られただけでよかった。こんな機会がめったにない」「自衛隊を志望しているが現場の自衛官と直接話ができ、さらに受験したいという気持ちが強まった」と等の声がかかった。広報資料館ではF-4戦闘機の模擬コックピットに代わるがわる座り、計器類についての勤務員の説明に熱心に耳を傾ける様子が見られた。また航空救難隊の落下傘装着体験コーナーでは「こんなに重いものを背負っているのか」と自衛官の強靱な体力に驚く場面もあった。栃木地本は今後も、駐屯地や基地見学を通じ、自衛隊を身近に感じてもらえるよう活動していく。



F-4のコックピットに座る学生



南極の氷の展示(小瀬スポーツ公園)



グッズを配布する隊員(河口湖ショッピングセンター)

自衛隊山梨地方協力本部は5月14日、サッカーJリーグヴァンフォーレ甲府の試合が行われた小瀬スポーツ公園(甲府市)において広報活動を行い、小型トラック(陸)、「ふじくん」「かえでちゃん」と共演した。また5月23日から29日までの間、河口湖ショッピングセンターBELLにおいてパネル展を実施し、航空自衛隊を紹介した。さらに28日にはチラシやマスキングテープなど自衛隊にちなんだグッズを来店された多くの方に配布した。山梨地本の広報官は「今後も、県内各地で広報活動を予定しており、時期や場所は山梨地本ホームページやSNSにおいてご案内いたしますので、ぜひご参加ください。お待ちしております」と語っている。

